

08 環境保全・自然保護

基本情報



【年 齢】
29歳
【出身地】
千葉県千葉市
【転出元】
北海道江別市
【前 職】
学生
【活動時期】
R3.4～R6.3

協力隊に応募したきっかけ

旅行でみた北海道の雄大な自然に憧れて、北海道の大学に進学し、野生動物について学びました。卒業後も自然に関わる仕事がしたいと考えていたところ、羽幌町で環境保全活動や環境教育に係る地域おこし協力隊の募集を見つけました。募集を知るまで“海鳥”についてほとんど知らなかったのですが、新しい分野への好奇心がありました。また、大学進学前に北海道に行った際に冬の北海道の荒々しい日本海に衝撃を受けてから、冬の日本海の荒々しい海が好きで、「ここで暮らしたい」と思い、応募を決めました。

今後の抱負・任期後の目標

羽幌町に来てから、念願のハンターになることができました。大学の頃から、農業被害の防除や捕獲・駆除個体の有効活用について関心があり、地域の人と野生動物の軋轢について取り組んでいきたいです。留萌管内には販売・流通が可能なジビエの食肉加工場はなく（2023年11月時点）、加工場設置のため経験を積んでいきたいと思います。

活動内容

●シーバードフレンドリー認証制度のリニューアル

シーバードフレンドリー認証制度とは、地域事業者の環境にやさしい取り組みを認証し、消費者へ啓発することで、環境保全と地域産業振興の両立を目指す羽幌町のローカル・エコ認証制度です。100万羽の海鳥が毎年訪れる羽幌町で、海鳥をとりまく自然環境（海・川・里・森）の保全を地域産業に広めていくため、2018年度からスタートしました。リニューアルでは、認証エリアを羽幌町から留萌管内に広げ、漁業・農業の具体的な認証基準を作成しています。



●羽幌高校とシーバードフレンドリー推進協議会連携の環境教育

協議会と羽幌高校の連携のもと、毎年「総合的な探究の時間」カリキュラムの中で、地域の自然環境と抱えている課題について学ぶ環境教育の授業を行っています。

9月のはぼろサンセットビーチの海岸清掃では、北るもい漁業協同組合や羽幌ロータリークラブにもご参加いただきながら行っており、海洋ゴミやプラスチックの問題を身近に感じてもらって“自分達に何ができるか”を考えてもらいます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））c-seisaku@town.haboro.lg.jp
（電話番号（職場））0164-68-7013

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（協力隊HP）<https://haborokyoryokutai.wixsite.com/ororon>

基本情報



【年 齢】
36歳
【出身地】
青森県弘前市
【転出元】
神奈川県大和市
【前 職】
会社員
【活動時期】
R4.7～
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

趣味が釣りやキャンプなど自然と関わるものが多く、狩猟や鳥獣被害防止対策にも関心があった。都市圏と地方の生活をどちらも経験した上で、自分には自然に囲まれて働き、暮らすのが合っていると強く感じ、地方への移住を検討するようになった。
情報収集を進めるなかで、出身地である弘前市からも近く、よく溪流釣りや山菜採りに訪れ馴染み深く、自然豊かで魅力的と感じていた西目屋村で、鳥獣被害防止対策分野の協力隊員を募集していたため、応募に至った。

今後の抱負・任期後の目標

農家とふれあうことで、鳥獣害対策は農家の生産意欲を守るために必要なことだと再認識しながら、業務を行っている。
今後は、狩猟免許等を活用して更なる貢献を目指している。
また、白神山地やマタギ文化のことを深く学び、その魅力と資源を活用・発信していきたい。

活動内容

●農地パトロール

農作物被害や生息調査、鳥獣被害防止電気柵等の確認を行うための農地巡回。
園地に侵入する鳥獣を目撃した際は、追払いや捕獲を行う。



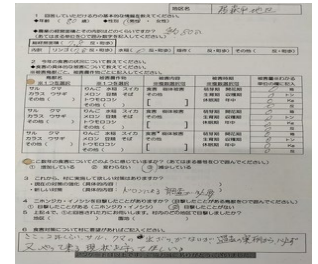
●有害鳥獣対策

農作物被害を防止するための鳥獣被害防止対策として捕獲檻の設置中。
西目屋村では、主な加害鳥獣として、サル、クマが園地に出没し、基幹作物となっているりんごに被害をもたらしている。



●被害・生息等データの活用

鳥獣被害や生息状況の記録中。農地パトロールや住民アンケートを行い記録したデータを基に効果的な被害防止策の検討を行う。



連絡先

【西目屋村企画財政課】
(メールアドレス) yoshitomo-k@vill.nishimeya.lg.jp
(電話番号) 0172-85-3080

基本情報



【年 齢】
39歳
【出身地】
埼玉県本庄市
【転出元】
埼玉県さいたま市
【前 職】
金融関係
【活動時期】
R4.4～R6.3

協力隊に応募したきっかけ

旅行やダイビングで八丈島には度々訪れており、八丈島の人・自然に魅力を感じていました。海なし県出身の私にとって、海のある生活というものにも魅力を感じていました。

また、社会人学生として島嶼地域で行われている持続可能な社会に向けた取り組みについて調査していた中で、離島で行われている再生可能エネルギー事業にかねてから関心があり、「再生可能エネルギーの活用」というミッションで募集されていたので応募をしました。

今後の抱負・任期後の目標

地域の方々に少しでも再エネに興味を持ってもらえるようなイベントやワークショップの開催をしていきたいと思っています。また、町として今後のエネルギー政策の指針となる脱炭素計画を策定する予定ですが、自治体、地域の方々と協働し、島内の現状把握や自然エネルギーのポテンシャルについて調査しながら、計画策定に向けて自身ができる業務を遂行していきたいと思っています。

任期後も定住をし、地域の方々とともに、八丈島の魅力を引き出せるような活動をできればと思っています。

活動内容

●再エネ関連事業

八丈町では地熱発電所が建設中であり、地熱発電事業に関連する業務や再エネ全般に関する情報発信やイベントの開催をしています。

また、町としての脱炭素計画の策定に向けた調査や情報収集をしています。



●地域おこし協力隊協働活動

地域おこし協力隊全員で協力隊員それぞれのミッションに関連するイベントの開催をしています。

また、「地域おこし協力隊通信」を発行しており、協力隊の活動を地域の方々に認知していただくとともに、地域の方々のニーズを意識した活動を遂行できるよう努めています。



●セミナー、研修への参加

再エネ関連のオンラインセミナー等への参加を通して自己研鑽に努めています。

また、地域おこし協力隊の研修や離島住民を対象とした集合研修等に参加し、様々なアイデアや意見を共有しながら協力隊活動に活かしています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(職場)) ha130@town.hachijo.tokyo.jp

(電話番号(職場)) 04996-2-1120

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(八丈町地域おこし協力隊facebook) <https://www.facebook.com/8okoshi>

基本情報



【年 齢】
30歳
【出身地】
東京都杉並区
【転出元】
東京都杉並区
【前職（兼職中）】
民間シンクタンク勤務
（環境問題の調査・政策立案支援）
【活動時期】
R5.8～

協力隊に応募したきっかけ

2年前の夏、暑い東京から逃れるべく友人とワーケーション先を探していて、たまたま乗鞍高原を訪れました。1か月弱の滞在を通じて、乗鞍の自然や人が大好きになり、シーズンごとに通うように。

訪れるうちに、ゼロカーボンパークの乗鞍で進むサステナビリティへの取組に関心を持つようになり、移住をしたら地域を良くしていくことにもっと貢献ができるんじゃないかと思っていたところ、ちょうど協力隊の募集があったため、応募し、協力隊になりました。

今後の抱負・任期後の目標

乗鞍高原では、地域ビジョン「乗鞍ミライズ」をはじめとして、地域を良くしていくための様々な取組が進んでいます。乗鞍を含む周辺地域が100年先も持続可能であり続けるために、地域の人・行政・DMO・教育機関など様々なアクターが丸となって取組を加速化させていく、そのためのお手伝いができたら嬉しいです。

最終的には、乗鞍を含むアルプス山岳郷一帯が、世界に誇れる持続可能な観光地になっていくことが目標です！

活動内容

●乗鞍高原ゼロカーボンラボラトリー（ゼロラボ）

「残したい暮らしとつくりたい暮らし」をテーマに、乗鞍高原でゼロカーボンを学び実践するコミュニティラボの運営事務局兼コミュニティマネージャーをしています。エネルギー、資源循環、モビリティなどのテーマで講師を招きセミナーを開催し、昨年度は地域内外から24名が参加。学んだ内容を活かして今年度は6つのプロジェクトが動いています。また今年度はこのプログラムには約15名が参加し、昨年度に加えて新たなプロジェクトが走り出す予定です。



●のりくら高原ミライズ

乗鞍高原では、2021年に策定された地域の将来ビジョン「のりくら高原ミライズ」を基に、課題ごとに分科会を設置し、地域をより良くしていくための活動が行われています。活動の進捗共有のために定期的に開催される全体会合の事務局として、情報共有やゼロラボの取組との調整を行っています。

●地域で活躍する方へのインタビュー

「地域を良くするためにはまずは地域を知ることから」という趣旨で、地域で活躍している方に取組や想いを伺うインタビューをしています。活動開始から、環境省国立公園事務所、松本市、アルプス山岳郷（DMO）などの方々にお話をお伺いしました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））y.ogawa@alps-sangakukyo.jp
（電話番号（個人））090-9147-8116

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
乗鞍ゼロラボ <https://zerolabo.info/>